

めにも、今後取りまとめられる戦略を踏まえ、様々な方策を実施していくとのことであった。

量研 杉本ITER日本国内機関長は、日本が分担する調達機器の進捗・主な成果、ITER機構の調達活動に関する量研の支援内容などを説明した。また、調達機器の詳細については、ダイバータ、遠隔保守機器、計測機器、テスト・ブランケット・モジュールの概要や今後の調達スケジュールを各担当者が説明した。

近年、核融合研究は世界で注目される分野となった。ITERのファーストプラズマに向けて日本の調達機器の製作を着実に進めるため、今まで以上に産業界のご理解、ご協力を得られるよう、量研は今後もITER参画推進活動を行っていく。

なお、ITER企業説明会の詳細については、ITER Japan ウェブサイト「ITER企業説明会の開催について」に掲載している。(https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/jada/page2_7.html)

6. ITER 職員募集オンラインセミナーを開催

2023年2月3日(金)、量研は、女性の活躍に重点を置いた、ITER職員募集オンラインセミナーを開催した(図6)。昨年10月にバラバスキ機構長が就任して以降、ITER機構では職員のダイバーシティを重視、男女間の職員数の割合、ITER参加極間の職員数の不均衡の是正を強く意識するようになった。ITER機構邦人職員も、39名のうち女性は5名と、女性の割合は13%と低い(2023年1月末現在)。量研ではこれを受けて、ITERで活躍している女性職員から、建設ドメイン トカマク冷却水システムセクション、コントラクトマネージメントオフィサーの前田佳子氏と、コーポレートドメイン 人事サービスセクションHRパートナーの藤野さやか氏の2名に登壇していただき、応募動機、業務内容、生活面など、女性の視点から説明していただいた。また、量研からは、元ITER機構職員の花光圭子が、応募・選考プロセスに関して自らの経験に基づいて説明した。25名の参加者からは、セミナー中に多くの質問が寄せられるとともに、応募の意欲が高まったなど高い評価をいただいた。本セ



図6 オンラインセミナーの様子。ITER 機構 藤野氏(上)とITER 日本国内機関(下)。

ミナーには日本国内に限らずアメリカやイギリスからも参加があった。また、セミナー後はITER機構職員に応募する日本人を支援するITER機構職員公募会員登録の問い合わせがあり会員登録いただいた。今後もこのようなセミナーを通じて、応募者のサポートを行い、ITER機構邦人職員の獲得に努めていきたい。

7. ITER 機構インターンシップ体験記：

一本杉 旭人 (九州大学 総合理工学府)

2022年5月8日から90日間にわたり、ITER機構のTritium Breeding Blanket Systems (TBB) にてインターンシップを実施した。それまでの準備、当時の職務内容、生活面について簡単に紹介する。

2021年4月頃に、量研のITER人材・広報戦略グループヘインターンシップに参加したい旨を伝え、ご紹介いただいた職員さん方と一緒に Cover Letter (CL)、Curriculum Vitae (CV)、職務内容についての準備に取り掛かった。おかげさまで、夏頃には、私の専門領域(トリチウム工学)に近いTBBにて、特別に枠を用意していただけることが決定した。それ以降、ITER-Test Blanket Module (TBM) プロジェクトについての勉強や英語力の強化等を逆算して行った。

しかしながら、TBM、運転シナリオ、トリチウムに関する規制等についての情報集めとその整理、職場環境への適合等にひと月近くの時間を要した。その後、トリチウム透過量並びに材料への蓄積量の評価に本格的に取り組んだ。量研のブランケット工学研究グループのお力添えを賜りながら、汎用シミュレーションソフトウェアCOMSOL上で、日本極のTBMを一次元で構築し、冷却水へのトリチウム透過現象に関わるパラメトリックスタディを実施した。また、仕事の合間を縫って、トカマク複合建屋、組立建屋、高周波加熱建屋、クライオプラント、トリチウムプラント、PFコイル巻線建屋等への見学も実施した。

生活面においては、3つほど困惑した点があった。ひとつは、言うまでもなくフランス語である。「Je ne parle pas français. (フランス語は話せません)」と言えば英語で会話できると思っていたが、それは大きな間違いだった。基礎的なフランス語能力は身につけておくべきだったと強く後悔した。続いて、急激な円安である。現地との物価の違いも多少なりあったが、驚くべきスピードで軍資金が減っていった。とはいえ、余暇を全力で楽しむのがヨーロッパ流の働き方なので、将来からの前借りという名目で、現地職員やインターン生との交流、観光など充実した南仏生活を送った。最後は熱波である。エアコンなしの1ルームの部屋を借りたため、在宅勤務中や睡眠中はとにかく不快だった。一方で、依然コロナ禍であったものの、特に制限もない以前の様な生活を送ることができた(図7)。

90日間という短い期間ではあったが、本プログラムを通して得たもの全てが、私にとってかけがえのない財産となった。これもひとえに関係者皆様のご支援とご協力のおかげであり、ここに改めて感謝の意を表する。そ



図7 インターン生とのマルセイユ vs ミランの親善試合観戦（左から2番目が筆者）。

して、この経験を活かし、更なる挑戦と成長に繋がってきたい。

8. ITER 計画紹介マンガ Vol.5 の発行

量研はITER日本国内機関として、核融合やITER計画について、科学や工学に関する専門知識の有無に関係なく、幅広い年代の方々に知ってもらいたいという思いから、ITER 計画紹介マンガ“地上につくる小さな太陽「ITER（イーター）」” Vol.1（出会い編）、Vol.2（インターンシップ編）、Vol.3（ものづくり・出港編）、Vol.4（旅立ち編）を制作している。

2023年1月27日、待望のVol.5～ものづくり・日本の調達機器 ジャイロトロン～（日本語版）を発行した（図8）。

今回のストーリーは、学生時代にソレイユと知り合いITERに魅了された主人公太陽が、大学を卒業し社会人になったところから始まる。那珂研究所内で開発が行われているITERに必要な核融合プラズマ加熱装置「ジャイロトロン」の仕組みや調達状況について紹介する。新たなキャラクターも加わる中、日本のITER調達機器について学ぶ太陽は、意外な場所でソレイユと再会する。ITER Japan Web サイトにてVol.1～3の日本語版・英語版・フランス語版・プロヴァンス語版、Vol.4、5の日本語版を公開している。今後はVol.5英語版の公開も予定しているので、ぜひご覧いただきたい。（ITER 計画紹介マンガ：http://www.fusion.qst.go.jp/ITER/comic/page1_1.html）



図8 ITER 計画紹介マンガ Vol.5（日本語版）。

（量子科学技術研究開発機構 量子エネルギー部門）